

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2頁 共同宣教司牧ブロック・長期宣教計画

8 頁 教区中学生広島巡礼 感想文

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



社会と共に

二〇〇一年一月五日の大聖年閉幕感謝ミサで、大塚司教は、二十一世紀を迎える京都教区の五つの宣教優先課題を発表しました（時報二〇〇一年三月号二八〇号四頁参照）。

「五番目の課題－社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。

「こんなことをやっています」ということで、実例のリストを順次掲載しています。個人としても、何かできそうなことがあるかもしれません。今年の六月号二一・三頁、八月号三頁、今月号九頁を参照して下さい。

(写真は教区内
学生広島巡礼のも
のです)

10
2003

い、未来に向けて展望が見出せ

るよう、教会共同体を刷新さ

せていきます。

2. 子どもたちの信仰教育の充実、

また信徒の養成や求道者の教育

の充実のために、現状と課題を

見つめ直し、司祭・修道者だけ

でなく、信徒自らもそれらに対

応出来るように、共同体として

取組んでいきます。

3. 司祭・修道者・信徒が協力し

て典礼奉仕をしていくために、

様々な役割を担う信徒典礼奉仕

者を養成し、時宜に適った新し

い典礼奉仕をしていきます。

4. 社会に奉仕する教会共同体と

なっていくために、絶えず具体

的な活動の糸口を模索し、〈開

かれた教会〉を目指します。

5. 京都西ブロックを構成する私

達一人ひとりがこの地域の福音

宣教の担い手となるために、更

に可能性を模索しながら、日々

手を携えていきます。

京都南部 東ブロック

1. 信徒の信仰教育のプログラム

の取り組み

① 第二バチカン公会議「カトリック教会のカテキズム」の勉強

2. 四教会における共同宣教司牧

推進のための組織の見直し

3. 信仰教育の充実、特に青少年

共同体の育成

② 分かち合いの機会

③ 「若い世代を教会へ」

④ 青年育成委員会の設置

⑤ ブロック単位での青年の集いの企画

⑥ ボランティア活動：ボランティア委員会の設置

⑦ ボランティア活動の調査と集約

⑧ ブロック内信徒への広報

⑨ 個人・小教区・ブロックに分ける作業

⑩ ブロック内信徒への広報

⑪ 滞日外国人との連帯

⑫ 信徒の信仰養成

⑬ 青少年の育成

奈良 南部ブロック

奈良 北部ブロック

奈良 南部ブロック

の信仰教育

4. 現代社会との連帯

昨年の長期計画と今年の司教訪問のテーマ「信仰教育」（上記参考）を加えたものを、二〇〇三年度の長期計画とする。

3. ブロックの各小教区内の組織が「役員会」制度から「宣教チーム」制度に変わる。

「宣教司牧チーム」合議体がこの機能を發揮して行くために、

ブロック会議と各小教区間の調

整・コミュニケーションを改善

しなければならない。

3. ブロック会議と各小教区間の調

整・コミュニケーションを改善

しなければならない。

各小教区との関係を理解し、ブロック会議及び担当チームのさまざまな役割と責任を認めるよう、説明しなければならない。

3. ブロックの各小教区内の組織が「役員会」制度から「宣教チーム」制度に変わる。

ロット会議及び担当チームのさ

まざまの役割と責任を認めるよ

うに、説明しなければならない。

3. ブロックの各小教区内の組織

が「役員会」制度から「宣教チー

ム」制度に変わる。

「宣教司牧チーム」合議体がこの機能を發揮して行くために、

ブロック会議と各小教区間の調

整・コミュニケーションを改善

しなければならない。

3. ブロック会議と各小教区間の調

整・コミュニケーションを改善

しなければならない。

滋賀 西ブロック

1. 生涯養成のための勉強会・グ

ループ集会

2. 集会祭儀の充実

3. すべての信徒が、ブロックと

3. 社会と共に歩む活動の情報交換と参加

4. 信仰共同体を体験するための分かち合い

5. 教会学校のリーダーや子どもたちの親の養成

滋賀 湖東ブロック

 1. 身近な社会の中で、福音を証しする
 2. 集うすべての人が、キリストの愛に、親しみに、信頼に包まれた教会を作り出す
 3. 自分の手の届く範囲で、キリストの愛が実現されていない社会、世界、弱い立場の人のために働く
 4. 大人と子どものカトリック教育に力をいれる

三重 北勢ブロック

 1. 滞日外国人との関わりをとおしき福音宣教共同体を作る努力
 2. 福音宣教共同体としての理解と意識改革
 3. 信仰の育成（特に青少年の）

三重 中勢ブロック

 1. 将来を担う子ども・青少年への対応
 2. 滞日外国人とのかかわり

3. 宣教への取り組みの弱さ
4. 信仰を深めるための生涯努力
5. 支え合う共同体づくり

教区典礼研修会報告

教区典礼委員会の本年度研修会
がコーコ・エレステ（典礼聖歌

も祈りはどこでも、いつでも、またどんな形でもすることが出来るものです。自分の言葉で語りかけることが大切です」と強調されました。

(日) 西陣教会で行われました。

お話を終了後、派遣と祝福のミニサガ四人の神父様の共同司式で行われました。

浜満神父（カトリック新聞四面
に、典礼について連載で分かりやすい記事を書いておられます）を講師に招きました。小教区の典礼担当者や、典礼について学ぼうとする意欲的な信者約七十名が参加

Aさんは「白浜神父の話は分かりやすく説得力もあり、とてもよく理解出来ました。典礼というとどちらかというと形式的で堅苦しい感じを持っていましたが、そのようなものではないことが良く分かって参りました」

して、終日熱心に白浜師の話に耳を傾けました。

うなものではないことが良く分か
り、今回参加して本当によかった
です」と印象的にその喜びを語っ

これまでの研修会は、典礼聖歌が中心でしたが、今年は多くの要

「です」と印象的にその喜びを語りました。おられました。（山科天田茂）

三重 北勢ブロッケ

4 大人と子どものカトリック教育に力をいれる
三重 北勢ブロック

京都南部地区東ブロック（河原町、高野、山科、北白川）
平和旬間の行事がありました

② 教会行事 教区行事への
加の呼びかけ

2. 青少年－次代を担う青少年 を育成する

① 各種の情報の提供
② 声をかけ、友だちになる
溝口外国人「外国人との交流促進」

八月十日(日)午後、大塚町教會六名の司祭による国際色豊かな平和祈願ミサが行われた後、ノートルダム小学校のプラスバンドを先頭に、河原町三条の教会前から河原町通、四条通を経て円山公園まで行進して、道行く人々に平和の大切さと祈りの心を訴えました。参加者約三百名でした。



エルサレムへの道(神の国の実現へ)

西 経一 神父(神言会)



聖書講座シリーズ「マルコ福音書を読む」7／2・3

みなさん、
兎と亀の話は
よくご存知で
すよね。あの
足ののろい亀

がどうして兎

に勝ったと思いますか。それはね、
兎は亀の方ばかり見ていたのに、
亀はゴールだけを見ていたからな
のです。

今日のタイトルは「エルサレム
への道」ですが、まずガリラヤに
ついて分かっていただきかなれば
なりません。そしてみなさん、今
日お話しするガリラヤは、ずっと昔
のはるか彼方のある場所のことだ
と考えないで、自分のこととして
読むのですよ。

マルコ福音書には、前半にイエ
スがガリラヤで宣教されたこと、
その後十字架に付けられるために
エルサレムに上られ、そしてまた
最後にガリラヤに帰られたことが
述べられています。

イスラエル王国は、分裂して北

でもイエスはそんなガリラヤにい
らっしゃるのです。

エルサレムの律法学者たちは、
律法を守っているかどうかをいつ
も考へてゐる、ものさし学者です。

彼らは能力はあります。勉強もし
ました。しかし、神を見るのでは
なく、律法をものさしとして、比
較してケチをつけるのです。それ
がエルサレムの特徴です。兎と同
じように兎ばかり見ているのです。

ガリラヤは、アッシリニアとかバ
ビロニアに占領されます。私たち
の心も、望まないいろいろなこと
で占められて、自分ではない、自
分の時間はないと感じます。自分
が被害者であると感じます。しか
し他のものとの比較ではなく、神
だけを、ゴールだけを見ていると、
これが変わってきます。

私の心は、私のためにあるので
はないのです。どなたも何かのた
めにあるのです。それを「私は私
のためにあるのだ」と誤解してい
る人がいます。そうではないので
す。命とか心とか身体は、差し出
されるためにあるのです。パンは
ね、食べられるためにあるのです。
パンが「私はパン、パン、パンで
ある」と主張してどんどん増えて
いったりしたら、それはパンでは

なく怪物です。私は誰かのために
あるのだと考へれば、束縛される
ことが喜びになることがあります。

それが「愛」です。そこにイエス
がおられるのです。

マザー・テレサが列福されるよ
うですが、マザー・テレサが列福
されるということは、カルカッタ
の町にゴミのように捨てられた人
たちがいたからであり、その人た
ちも列福されるのです。どちらが
えらいかではないのです。マザー・
テレサは、そのことを知っていた
から、威張らなかつたのです。も
し聖人になつて後から「私はいろ
いろ世話をしたの人たちよりは
るかに立派な存在です」なんて手
紙が発見されたら、直ちに聖人は
取消です。そんなことはないので
す。ありのままの姿を受け入れる
ことが大切です。

福音は比較することをやめて、
丸ごと全部受け入れて救われてい
るということです。だから喜びの
知らせです。この道がエルサレム
への道なのです。

講演のお話全部を収録したテー
プを、希望者に五百円または六百
円で頒布しています。

問合せ 聖書委員会

075(211)3484まで。

養成コース

| |
|--------|
| 福音センター |
| ニュース |

祈りⅡへの案内

何を守るよりも自分の心を見守れ そこに命の源がある（箴言の書 4:23）

静まる 黙する 思い巡らす

隠れたところにおられる神に親しむ

神は私たちを迎え入れ癒し、囚われから解放し

本来の生命にもどして下さる。

祈りはすべての人の日常生活のためにある。その中で人には自分で受けてたたねばならない苦しみや試練がある。

キリストは、アッバ父である神への道、私たちがどんな希望に召されているかを身を以て示して下さいました。

神はわたしたちひとりひとりの語ることをまるで聞くべき相手がひとりしかいないかのように耳を傾けて聞いて下さる。

日々のいろんなかかわりから生じてくる自分の心のあり方に向き合い神のみ前に静まり、身をおいてみませんか。きっと新しい心・新しい力がわき出てくるでしょう。

静かな初冬の琵琶湖畔での機会を是非ご利用下さい。

指導 松本秀友師・シスター・安井昌子

日時 2003年11月7日（金）4時～9日（日）3時半

会場 唐崎ノートルダム修道院

〒520-0106 大津市唐崎1-3-1

（JR湖西線唐崎駅下車 徒歩10分）

TEL 077-579-2884



申込み 10月27日（月）迄に//

郵便番号・住所・氏名・電話/Fax番号・E-mailアドレスをご記入の上、

参加費 20,000円を下記へお振り込み下さい。

郵便振替口座 00920-4-161844

「カトリック福音センター養成コース」宛

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

電話 075-822-7123 Fax 075-822-7020 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp



(年間第25主日)

わたしの名のためにこのような子供を受け入れる者は 受け入れる者 (マルコ9・30~37)

マルコの描く弟子たちの姿になにやらホットするのは、イエスに従いたくとも、ことあるごとに道をそれてしまう我が身の弱さを彼らのうちにながめて安堵するからかもしれません。今日の福音でも弟子たちは、またあからさまにその人間臭さをわたしたちに見せてくれます。その場面は「ガリラヤを通って」(30)、つまりエルサレムへのぼる途中の出来事です。イエスは二度目の受難の予告をされます。最初の受難の予告では(8-31)ペトロがイエスの言葉をいさめました。今回、イエスがご自分の受難を弟子たちに告げられたとき、弟子たちはだれがいちばん偉いかを議論しあっていたのです。

いちばん先になりたい者は…

そのような弟子たちに対し、イエスは二つのことを語られました。一つは、「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」(35)ここでは「すべての人」という言葉が印象的です。イエスはご自分に従う弟子たちに、力や権力を求める世の中の生き方とは正反対の生き方を求められます。神の国で「いちばん偉い」人とはそのような人だと主は言われるのです。

子供のような信頼を

では二つ目の、「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである」という言葉と、初めの言葉とはどのような関係があるのでしょう。まず子供とはイエスご自身のことではないでしょうか。御父に全面的に依存する子供としてのイエス。子供とは決して子供っぽいことではなく、未成熟を意味するものではありません。成熟した人間が自分に与えられた自由のなかで、神に対して子供のように心を開くことをイエスは望んでおられます。仕える者としてのイエスは同時に、御父に対して子供のようにご自分をゆだねる方もあるのです。

祈りに糧を求めて

しかしあなたたちがこれら二つのことをすぐに実行しようとしても無理です。弟子たちが三度目の受難予告にたいしてまたもや無理解を示していることからも明らかです。(10-35)イエスの生き方に従うには、それを願う真摯な心が必要です。その心が祈りとなることが必要です。わたしたちは洗礼によって神の子供とされています。わたしたちのなかには、御父に向かう子供の心がすでにあります。祈りのなかでその心を静かに養いましょう。



教区中学生広島巡礼（八月五日～七日）

感想文

今年の教区中学生広島巡礼は、

た。

昨年に比べて倍以上の中学生三十五名、引率者七名が参加しました。

全員に心を動かされたところ

を感想文にしてもらいましたが、その中から三名のものを紹介します。

（広島巡礼の感想文全文は、京都教区ホームページに掲載しますので、ご覧下さい）

広島に来て思つたこと

中一 松本晴馬（河原町教会）

ぼくが広島へむかっていた時、原爆とか戦争とかいうことは上の空だった。どちらかというと新幹線と市電に乗ってみたいという気持ちの方が強かった。だが、ついでから原爆ドームを目のあたりにしてその気持ちはふきとんだ。むかって右側の前カベが全部破壊されていた。立ちつくすばかりである。熱風と爆風で鉄骨も曲がった。平和記念資料館に行くと、さらに原爆のすさまじさがわかつた。



へひどい思いをさせたと思う。

また、その前には原爆ドームに落書きをするという事件まで起こっている。

ぼくは、このよう人にことを考えず、ムシャクシャしたという理由でやってしまって、本当に集まって戦争になっているのではなくかと思う。自分勝手なせいで他人との関係がおかしくなり、ケンカ、それが大きくなつて戦争に発展するのだろう。お互いに思いやれる人が増えればいいと思うが、実際世間はそう簡単には変わらないようだ。

中二 山本彩子（草津教会）

八月六日、平和記念資料館で、なくなつた人々の遺留品を見ていて、私よりも、うんと幼い子供の遺留品がありました。まだ、三歳という小ささで、原爆の犠牲となりました。生まれてきて三年。たつた三年しか、生きられなかつた命。他にも、十二歳の人たちもいました。火傷を負つた体でも自分の家まで、行った人たちが多くて、傷を負つても両親に会いに行こうと思ったのかなあと思いまし

資料館の中には、被爆者の絵なども、置いてありました。その中で、心に残っているのが、親が自分の子供を燃やしている絵でした。親は「後で、お父さんも行くから…」と書いてありました。でも、さいごに「（自分は、行けなかつた勇気がなかった…）」と書いてあります。死ぬことを自分からしてはいけない。子供の分まで、生きることのほうがいいと思うし、死ぬための勇気を使うではなく、生きるために、生きている時に勇気を使うことのほうが大切だと思った。

ヒロシマに来て、戦争とは、本当に悲惨なことであり、二度と繰り返してはいけないとどうことがとてもわかった。

広島に来て

中三 伊藤大樹 (唐崎教会)

広島と言わると原子爆弾を世界最初に投下され、多くの犠牲者が出了都市として強く印象に残っています。初めてヒロシマに来て、原爆ドームを見た時に、原爆の破壊力を知りました。写真で見たものは違う雰囲気を漂わせており、何かを訴えているようでした。あれを見ると、平和という文字がいつ

そう大切で追求しなければならないと思います。平和と言でよく

言うけど、平和という文字は、たくさん意味を含んでいると思います。

この広島平和巡礼でその言葉が持てる意味が少しながら分かってきました。今までは「戦争をしない」というのが平和だと思っていましたが、それ以外の意味もあるということを知りました。世

界中の核兵器をなくすことだけでなく、もっと人間一人一人が安心して暮らせる社会にしていかない

といけないと思います。一人では平和を追求することはできません。

みんな一人一人が平和というこ

とをしつかり理解して、平和を求める意志が大切だと思います。やは

り一番大切だと思うことは一人一

人が力を合わせることだと思います。一人では、何もできないので力をあわせることにより、大きな

ことでも成し遂げられると思いま

す。広島平和巡礼をして、平和についての考え方があらわづ変わつてきています。平和になることを願い、僕も力を合わせて

いきたいと思います。

社会と共に歩む教会3 こんなことをやっています

六、八月号に、信徒が取り組んでおられる「社会とともに歩む」実例リストを掲載しました。その続きです。

活動内容

重度知的障害者のデイケア
個人 久居教会

一人暮らしの老人の通院を車で援助
身体障害者互助会で手話による聴覚者の手伝い

グループホームで本の読み聞かせ
老人ホームを歌と踊りと会話で慰問

キリシタン研究の内容を発表
近所の母子の子育て支援、母親のコミュニケーションの場を提供

家庭集会により未信者にも福音宣教
立礼式のお茶の会の世話

ホームステイの受け入れ、地域住民との触れ合い

老人の健康体操支援

里親、養育里親、成人後は支援

死刑囚の支援、再審支援、死刑制度廃止

視覚障害者の人と盲人野球

知的障害者の人の福祉作業所設立支援

心身障害者のリハビリに無農薬・有機野菜農作業

のぞみの園での手伝い(デイサービス、入浴

後の介助、食事介護、喫茶、ウエス切り、療

育音楽、習字教室、種々の行事、バザー、入

居者の介護、ボランティア養成講座)

聖ヨゼフ整肢園での手伝い(縫い物、洗濯物、おしぼり、食事介護)

希望の家(独居老人への配食、交流会等、昼食弁当の配達)

| | 形態 | 所属 |
|------|-------|----|
| グループ | 上野教会 | |
| 個人 | 久居教会 | |
| グループ | 河原町教会 | |
| 名張教会 | | |

こんなにはシスター

ノートルダム教育修道女会
松ヶ崎修道院

前列右よりSr続木、Sr和田、Sr佐藤、Sr福島、後列右からSr近藤、Sr松本、Sr棚橋、Sr河瀬



私たちの修道院は一九八八年、左京区松ヶ崎に貧しくあることを土台に、プレハブ様式で建てられ、從来鹿ヶ谷におかれていた地区本部を移し修道院としても共存しております。今年度のメンバーは八人で、昼間は他の共同体から六人の姉妹が来て事務局の仕事をサポートしています。

Sr和田は地区リーダとして、Sr近藤は地区評議員として、Sr棚橋は本部事務局で働いています。Sr続木はピアニストで音楽を通して

芸術と神への賛美を子供たちに教えています。Sr佐藤は健康の要である食事を整え、四月からは「京都教区女子奉獻生活者の会」の会計を担当しています。Sr福島は京都教区聖書委員会に勤務、聖書講座を通して神のみことば宣教にエネルギーを注いでいます。墨字もなかなかの腕前です。Sr松本は永年勤務した大学を今年三月退職、他方卒業生との関わりを大切に聖書や英文学の集いの中で神を知り、人生のあり方と共に考えアドバイスを提供しています。Sr河瀬はバガサ・フィリピン共同体と関わり、日本人とフィリピン女性との結婚による子どもたち（難しい状況下にある）と共に「信仰を分かれ育むのは？」と日々思いを募らせていました。

大きな恵みと喜びの一つに修道院で朝のミサがあるとき、お隣のメリノールのシスター方、ご近所の方々と共にミサに与り賛美と祈りの歌を捧げ多様性の豊かさをいいます。

京都教区聖書委員会では、毎年、五月から十月にかけて聖書講座を企画してきたが、今年で二十回目を迎えることになった。今回出版された書は、「二〇〇〇年、「旅する神の民」—大聖年を歩む」と、二〇〇一年「はじめと終り—神との出会い」から五講座をテープ起こしたものである。

京都教区聖書委員会では、毎年、五月から十月にかけて聖書講座を企画してきたが、今年で二十回目を迎えることになった。

『神から神へともに歩んで下さる神』

聖書シリーズ 3 サンパウロ

版されている。

世界の中に生きる教会であるキリスト者は、社会の国際的な動きに無関心ではないなれど、また、キリストの教会にいきる信徒として、教会の動きに敏感に応えようとする、その動きの中では、私たちは、福音の語る言葉のコト、出来事のコト、福音の「オト」を、聞いて応える。その「コト」を聞くためには、多くの人々の解き明かしと、靈の照らしがいるのです。

聖アウグスチノは、回心のため「取りて聖書を読め」と言うことはを聞きました。私たちは、信仰の深化と、魂の靈化のために、神の言葉を聞かねばなりません。しかしその「コト」を知るために、多くの人々の解き明かしと、靈の照らしがいるのです。

すばらしい注解に光を受け、して再び、聖書のみことばを読み込んでいくのです。数あるみことばの優れた解説、説教に合われて、これらの書も手元に置いて、聖書委員会からのささやかな贈り物です。（かつて読

一、『聖書における女性像』

これは八五年（国際婦人年）に合わせて開かれたもの）から四つ

二、『御父・御子・聖靈なる神』

これは「聖霊の年」（一九八九年）、「御父の年」（一九九九年）から六講座が収められている。

福音セントナーから

お知らせ

演「幼いイエスの聖テレーズ—砂漠の中を歩む—」5日(日)13時半
講師 中川博道師 ミサ17時

教育関係施設から

◆コーエ・チャレスティ練習 第2、第4、第5木曜日10時 河原町会館六階ホール

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼体育祭3日(金)▼創立記念日10日(金)

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会18日(土)13時半 フランシスコの家

◆聖母教育文化センター▼日曜巡回
オーケソソ11月3日(祝)10時スタート 河原町教会

◆聖母学院小学校▼運動会4日(土)

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼体育祭3日(金)▼創立記念日10日(金)

◆養成コース▼祈りII 11月7日
(金)16時~9日(日)15時半
本文六頁

◆京都南部カトリック協議会▼ウタード・河原町教会
奈良カトリック協議会▼聖書講座10・11日西野猛生師、24・25日英隆一朗師 場所 奈良教会▼ならキリスト教会音楽祭19日(日)

◆聖母教育文化センター▼日曜巡回
礼の旅—近畿のキリストの遺跡—河内キリスト教会跡(砂、岡山、三箇)12日(日)13時 J.R学研都市線野崎駅集合 指導者三俣俊二名譽教授 問合せ075(6)43)2320

◆糠みその会▼例会30日(木)19時45分 九条教会ホール

◆聖書委員会▼聖書深説11日(土)
10時 奥村一郎師 河原町会館六階▼聖書講座シリーズ1・2日菊池功師 8・9日北村善朗師
15・16日国井健宏師 22・23日昌川信雄師

◆典礼委員会▼主日のミサと聖体
贊美式第一日曜日17時半 河原町教会
青年のための一日默想会—11月24日(振休) 会費五百円 聖ドミニコ修道会 申込み宇治教会北村師までFAX0774(24)2429

◆おてんとうさんの会▼24日(金)13時 西院教会
京都力ナの会▼力ナの会集いと例会5日(日)13時半 河原町会館六階ホール

◆心のともしび▼テレビ・主な放送内容26日『貧しさの中の輝き』出演 倉橋輝信師▼ラジオ・ティマ『生きる強さ』問合せ075(211)9341

◆西院教会▼ミサと講演会19日(日)10時 テーマ イエス像を学ぶ「イエス様ってだれ」講師 本田哲郎師(かまが崎反失連代表)昼食持参下さい

◆三重カトリック協議会▼聖書講演会25日(土)辻家直樹師、場所三重県カトリック研宗館

◆JOC▼京都働く人の家、滋賀効く人の家 問合せ090(8207)1831
◆おてんとうさんの会▼24日(金)13時 西院教会
京都力ナの会▼力ナの会集いと例会5日(日)13時半 河原町会館六階ホール

◆レジオ・マリエ▼コミチウム第3日曜日 河原町会館六階
◆ヴァーカル・アンサンブル 力ペラ京都公演 デュファイの魅力(グレゴリオ聖歌とルネサンス・ボリフィオニーによるミサ形式の演奏会)27日(月)19時 河原町教会

◆高野教会▼チャリティーバザー百円 申込み電話075(231)2017 Sr安達

◆京都キリスト研究会▼都の聖ラザロ顕彰ミサ5日(日)河原町教会▼定例会26日(日)14時 河原町会館六階ホール

◆「一万匹の蠍運動」基金報告累計三七、八六六、九三一円(内受取り利息 九三〇、五六六円)(八月十八日現在)

修道会から

プロック・小教区から

施設・諸活動から

◆心のともしび▼テレビ・主な放

◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう「みことばと聖ドミニコ」11月1日(土)14時 講師

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日第2日曜14時、第4土曜19時

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日第2日曜14時、第4土曜19時

◆心のともしび▼テレビ・主な放送内容26日『貧しさの中の輝き』出演 倉橋輝信師▼ラジオ・ティマ『生きる強さ』問合せ075(211)9341

◆京都女子カルメル会修道院▼講

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼体育祭3日(金)▼創立記念日10日(金)

◆聖母学院小学校▼運動会4日(土)

◆コーエ・チャレスティ練習 第2、第4、第5木曜日10時 河原町会館六階ホール

◆京都女子カルメル会修道院▼講

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼体育祭3日(金)▼創立記念日10日(金)

◆聖母学院小学校▼運動会4日(土)

◆コーエ・チャレスティ練習 第2、第4、第5木曜日10時 河原町会館六階ホール

◆京都女子カルメル会修道院▼講

◆ノートルダム女学院中学高等学校▼体育祭3日(金)▼創立記念日10日(金)

◆聖母学院小学校▼運動会4日(土)

◆コーエ・チャレスティ練習 第2、第4、第5木曜日10時 河原町会館六階ホール

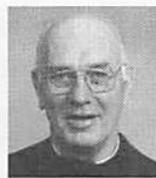
天塚司教の

10月のスケジュール

- 1日 (水) 中央協機構改革委員会
15時
2日 (木) 中央協常任司教委員会
10時
5日 (日) 司教ブロック訪問 (唐崎教会)
6日 (月) ~7日 (火) 大阪管区事務局長会議 (京都)
8日 (水) 啓光学園
11日 (土) キーン師追悼ミサ 11時
河原町教会
12日 (日) 山科教会献堂五十周年
記念ミサ 10時
15日 (水) 教区協議会書記局会議
18時
16日 (木) 司教顧問会・責任役員会
18日 (土) 教区カトリック協議会
14時
21日 (火) ~28日 (火) 教区司祭年の黙想 (当別トラピスト修道院)
30日 (木) 女子奉獻生活者代表者
会議 14時

二案内 内

◆カトリック通信講座
受講者募集中 いつからでも受講



◆帰天
トーマス・キーン師 (メリノール宣教会)
8月3日カリフォルニアで帰天されました。七十
四歳でした。西陣、桂、衣笠、名張をはじめ、
京都教区のためいろいろご奉仕して下さいました。
永遠の安息のためにお祈り下さい。

◆編集部から
お知らせに載せたい情報は、京都
司教区本部事務局内「京都教区時報」宛にFAXか、またはEメール
henshu@kyoto.catholic.jp で
お願ひします。

できます。キリスト教とは、聖書
入門I、キリスト教入門、神・発
見の手引き、以上四講座四千五百
円、聖書入門II、幸せな結婚、以
上二講座五千円(全六講座)
問合せ オリエンス宗教研究所力
トリック通信講座センター
〒156-10043
東京都世田谷区松原2-1-28-5
電話 03(3322)5322
FAX 03(3325)5322

上二講座五千円(全六講座)
問合せ オリエンス宗教研究所力
トリック通信講座センター
〒156-10043
東京都世田谷区松原2-1-28-5
電話 03(3322)5322
FAX 03(3325)5322

上二講座五千円(全六講座)
問合せ オリエンス宗教研究所力
トリック通信講座センター
〒156-10043
東京都世田谷区松原2-1-28-5
電話 03(3322)5322
FAX 03(3325)5322

中学生会夏の合宿2003

リーダー 有地 実希

今年の夏もまた、京都教区中学生会の合宿を無事に開く事ができました。この場を借りて報告させていただきます。

中学生会の合宿は、中学生のカトリック信徒の育成を目的として(もちろん、信徒でない中学生も対象です)日数をかけて、担当司祭と青年のリーダー陣で、内容を作っています。合宿には、毎回テーマがあるのですが、今年の夏合宿は、「勇気」をテーマとして掲げました。京都府の山奥、周山は鶴野の、自然いっぱいの中でそれぞれ対面し、探検をしたり川遊びをしたりしているうちに、初めて参加する子もそうでない子も、だんだん慣れない環境に対する緊張がほぐれ、自然に皆打ち解けていく事ができたよう思います。

二日目の夕食は、中学生たちで協力しあって作ったのですが、皆、一生懸命団結して作る事ができました。その後、班ごとに別れて分かれ合いをしました。「勇気」にまつわる体験談を語ったり、鶴野の自然に自分の事を

青年センターあんてな

合宿中はいつも、中学生にとってはもちろんですが、リーダー達にとっても、学ばせていただきたく事がとてもたくさんあります。仲間の大切さ、協力しあって一つの事を成し遂げる事、そして、いついかなる時も信仰を忘れない事……。これらは皆、合宿だからこそ、感じる事のできる賜物です。これからも、そんな気持ちを感じられる合宿を作っていく様に、そして合宿を通して、更に信仰の輪を広げて行けるようにと思っています。

◇中学生会冬の合宿2003は十二月末に行う予定です。

例えて話すワークなどをして、その内容を、それぞれ画用紙上で好きに表現してもらい、二日目に発表し合いました。そして、その作品を、最終日に行ったミサの中で奉納し、三日間を振り返りつつ、感謝のうちに合宿を終える事ができました。それぞれの「勇気」を、存分に發揮してもらい、充実した合宿になつたように思います。

二案内 内